

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本体施設の理念を元に独自の理念を作っているが地域を取り込む部分に欠けている。		利用者の希望や状態職員の力量を勘案し、認知症を取り巻く社会情勢を照らし合わせて年度毎に見直していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を作ったにとどまっている。日々の関わりや記録等には反映されていない。		理念を、玄関や見える場所に掲示する事により職員の意識向上を図り、サービスの質向上に取り組みたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域住民への働きかけは実施していない。家族に対しても、理念等の説明をしていない。		地区自治会総会などへ出向きグループホームへの理解協力を得られるような取り組みを考えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地的に地域住民が立ち寄りやすい場所ではないため、施設関係者や家族に限られている。		日々の買い物であるとか散歩などを通して、地域住民との接点を持てるような働きかけをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	限られた行事(文化祭、夏祭り)への参加にとどまっており、十分な交流とは言えない。		ホーム側から地域の行事へ参加したり、自治会などの活動にも可能な範囲で協力を得ながら参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施していない		運営推進会議の折りに地域や行政等に話題提供して、機会を見つけて対応していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての実施。計画的に進めていない事もあり、内容の理解等不十分な部分が多々ある。		事前に計画性を持ち、全職員が、十分に理解して、実施出来るように余裕を持って対応していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のプライバシーに配慮しながら、極力、グループホームでの生活がわかるように報告している。		外部評価の経過を報告したり、内容への意見などを、発言しやすい風通しの良い、会の運営を行っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみになっている。		市の施設見学や散歩、担当課訪問などを活動に取り入れていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度や学ぶ機会を設けていない。		当該研修に参加した本体施設の職員を講師に招き、勉強の場を設けたり研修会の機会があれば参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律や制度等の研修は行っていない。研修の復命書を、読むこととまっている。言葉遣いに注意している。		啓発用のポスターを掲示したり研修会へ参加する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時点でお話している。その後も面会の折「何かお話しになりたい事はありませんか」と伺う様にしている。		現状から予想されるリスクと予防策など、十分に話し合いたい。やむを得ず退去に至る場合も同様。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が話しやすい内容(食事や自宅への外出など)には早急に対応するようにしている。		利用者アンケートの実施と介護相談員の定期的な訪問により意見を出しやすい機会を作る。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時2近況や預かり金、通院状況をお話するようにしている。体調変があった場合にも、電話連絡している。		グループホームの広報作成により家族に近況を報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会、家族参加の行事の折に伺うようにしている。直接ではなく、本体施設を経由して報告される事がある。		口頭ではなかなか話せない事もあるため、外部評価以外にも、家族アンケートを実施していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体での会議が難しい事もあるため、課題を出したり意見などを紙に書いて貰ったりして、意見を聞くようにしている。		月1回は職員会議を設けて意見等を聞く場を作り、意識統一を図り、サービスの質向上に努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は通常のシフトに入っていない為、外出や通院、有事の対応、職員の急な休みに対応出来るようにしている。その他にもお願い出来る人を(1名)確保している。		夜間の入浴を充実させたいので職員の勤務時間を検討していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在までに、異動、離職はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務年数や必要と思われる外部研修については順番に参加するようにしている。また、復命書を回覧したり、復命報告会を実施している。</p>	<p>法人内の各セクションからの勉強会を設ける他、外部研修などへも積極的に参加していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協会に加入し毎月の定例会に参加し、最新情報や動向を聞いたり他のグループホームとの意見交換の場となっている。</p>	<p>次年度は職員が順番で参加し、他施設との交流や職員の意識向上となるように取り組んでいきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>福利厚生センターに加入し、会員事業への参加を促し、また、職員互助会組織に助成し、研修並びに親睦旅行を実施している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各福祉関係の資格に対し手当を支給。専門職としての質の向上に努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至るまでの、複数回の面接、面談の機会を設定出来ず、本人の思いを聴き出すまでには至っていない。</p>	<p>利用に至るまでに、何度か訪問して信頼関係の構築に努めていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最初の面談の折には家族の苦労や思いなどを、充分に話して頂いた上で助言するよう心掛けている。</p>	<p>同上</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時点で複数のサービス利用をしている方が殆どである。それ以外のサービスを考えられる時はお話しするようにしている。		他のサービスについての勉強をして、情報提供が出来るようにしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、本人、家族に施設見学をして頂きたい事を話している。		ベッドの空き状況にもよるが、可能であれば、体験利用を進めていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る範囲内で、協力を促し、利用者が常に中心となって頂けるように配慮している。		今後も、常に利用者が中心にいる生活を心掛けていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の折に、利用者の状況を話しながら、家族の話を聞いたりして、利用者とな家族を結ぶように、働きかけている。		家族とともに行う行事や、自宅への外出などを勧めながら、家族の協力、関係が深まるよう取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の少ない家族に対しては、強制的にならないように、面会を依頼したりしている。又、外泊が難しい場合でも、外出や通院帰りに自宅に寄るなどの対応を心掛けている。		利用者の状況に応じて家族との時間が持てるよう取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的な働きかけはしていない。		利用者やその家族から聞きながら、少しずつでも取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症の度合いに依り、日常生活や活動等で、かなりの開きがあり、利用者同士の折り返いが悪い。お互いを理解、支え合う事が出来るような働きかけは不十分である。		孤立する利用者をフォローしつつ、他の利用者への理解を深められるように、取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅へ戻られた利用者については自宅へ一回、デイサービス利用時に出向いて様子伺いを行った。入院され退所となった方についても病院へお見舞いに行くなどしている。		在宅へ戻られた方については、継続的に様子伺いをしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとり一人に担当をつけ、担当を中心に理解を進め、他の職員へ浸透するように、申し送りノートを利用しながら行っている。		更に、利用者を理解出来るように、担当を中心に取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より話を聞く事は勿論だが、面会に来た知人や友人などからも、昔の話を聞くなどして、理解を深める様になっている。		更に、詳しく利用者、家族に聞き取りをしながら、理解を深めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一般的な生活時間に合わせた利用者の生活になっている。		利用者の希望を中心にして、心身共に楽しく安心出来る生活になるよう取り組みたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者のみで作成した物となっている。		計画作成担当者や担当を中心に本人や家族、他の職員などの意見を収集し、依り良い物を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の作成は、申し送りノート等を利用して対応している。		利用者の状況に合わせて臨機応変に対応し、依りよいものを作成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートは、何でも記入出来るようにして、業務前に必ず目を通し、情報の共有に努めている。		気づきや情報を介護計画に取り込めるようにして行きたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は極力職員が付き添い、現状報告をしっかりと行う事で、適切な医療を受けられるように配慮している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	出来ていない		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	出来ていない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	出来ていない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を密にして対応し、他の専門医を紹介して貰う事もある。極力日常生活を良く知る職員が、通院対応するが、病院が遠方だったり、検査等で時間が掛かると予想される場合は、家族に付き添いをお願いしている。		家族の希望、協力を得ながら、適切な医療を受けられるよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医で、対応困難な場合は、専門医へ紹介して頂いている。		認知症の専門医を近くに見つけて気軽に相談し、助言して頂けるような関係作りに取り組みたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	本体施設の看護職員との連携体制があり、週1回グループホームに2時間程度勤務して、利用者のバイタルチェックや健康相談への助言等している。24時間の連絡体制あり。		医療連携体制加算も視野に入れた基盤作りに取り組みたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の様子を見に行く程度にとどまっている。 (対象者は1名のみ)		入院時には医療関係者との連携を密にするように取り組んで行きたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では、重度化(寝たきり)した場合には退所をお願いする事もあるとお話している。		継続的に、重度化、終末期についての検討をしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に対しては、職員の力量不足や、かかりつけ医との共通理解も難しい事から、現時点では、考えていない。		重度化、終末期について、かかりつけ医との話し合いをすすめて行きたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅へ戻る場合には、自宅での生活を想定してグループホームでの生活に留意した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わり方を、職員間で注意しながら利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。 個人情報の持ち出しを禁止し秘密保持の徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声掛けをしているが、本人が決める力や、その人らしい希望や願いを引き出す取り組みが出来ていない。	些細な事でも本人が選びやすい場面を作る。 複数の選択肢を提案してひとり一人の利用者が自分で決められる様な取り組みをしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、ひとり一人の、その日したい事を把握出来ていない。	ひとり一人の要望を聞きながら、希望に添った支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは、出来る限り本人の意向で決めている。 身だしなみで不十分な所や乱れは、さりげなく直し、一部支援している。 理美容は、本人の望む店があれば行けるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛りつけ、片付けなど利用者と共に、職員が利用者と同じテーブルを囲んで食事をしている。 畑の野菜を採ってきたり、旬のものを取り入れるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ひとり一人の嗜好品を理解しているが、お酒の好きな利用者には、行事の時にしか飲めていない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間帯やそれらしい様子を把握し、トイレ誘導する事で、トイレでの排便が来ている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ひとり一人の希望に合わせて(毎日、1日おき、夕食後等)入浴しているが、時間帯は、職員の都合で決めてしまう事がある。入浴の意味がわからない方には、タイミングを逃さないようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に応じて、畑作業や散歩、体操など行い、日中に身体を動かす事で、安眠に繋げるようにしている。		必要な方には夜間入浴を取り入れていきたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、お掃除、野菜作り、花壇作り、水やり、干し柿作り、等利用者の知恵や経験を生かせる場面を作り、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理しているが、理髪の際は、能力に応じて、自分で支払える様にしている。		外出の際は、自分で支払いが出来るように支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	目的のある外出はしているが、ひとり一人の希望に添った外出は、あまりない。		個別の希望を取り入れて、天気の良い日は、町まで出掛けられるように取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季に触れながら、個人の希望を損なわないようにし、職員の勤務状況を見ながら無理のない外出を心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、担当職員が家族に電話連絡することはあるが本人自らはない。		文字を書く機会が少ないため、日記を付ける予定を、カレンダーに記入するなどの、取り組みから始め、季節の挨拶の手紙やはがきを、出せる様にしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず、いつでも受け入れ出来ている。場所は、それぞれの部屋だったり、フロア内でもその時に応じたスペースは確保されている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	向精神薬を服用している利用者が2名いる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵を掛ける事はしていない。全部屋に鍵、チャイム、センサーもない。		利用者より鍵を付けて欲しいという要望への検討をしていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、利用者はフロアに集まっている事が多いが、常に所在や様子を確認している。監視カメラ等の設置はなく、夜間は2時間毎に巡回している。また、利用者の状態により、巡回の回数を増やしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は鍵を掛けた場所に保管しているが、その他の物は、状況に応じ保管管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	体調の変化に依り転倒などの恐れがある場合、申し送りをしっかりしている。また、ヒヤリハットの報告や記録は全職員で確認している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部の職員や本体施設の医務に頼っている。定期的な訓練もしていない。		消防署の協力を得て救急救命の講習会を受講していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と地域のあいあい会の協力を依り、法人全体の訓練を年2回実施している。		災害に応じた訓練や対策を話し合い、グループホームのマニュアル作成に取り組みたい。消防署の協力を経て避難経路の確認をしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な外出について、抑制はないものの、起こり得るリスクについての把握が不足している。入居時、家族に説明するのみで、話し合いまでには至らない。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の体調把握に努め、気づきを記録している。様子の変化で気になる時は、本体施設の看護師へ相談したり、申し送りなどで、早期の通院対応へ繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握するため、通院後、直ぐに処方箋を回覧し、全職員が目を通して確認している。また、いつでも確認出来るようケース毎に綴っている。薬を手渡す際、声に出して名前を呼び、薬の確認をしているが、きちんと服薬出来たかの確認は徹底されていない。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く摂れる献立に配慮し、乳製品を1日1回以上摂っている。また、身体を動かす機会を作っている。水分摂取の記録は徹底されていないが、ひとり一人の排便状況の把握に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯洗浄や歯磨きなどは、能力に応じて声掛けや支援をしているが、口腔状態の把握は、一部の利用者のみとなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>出来るだけ野菜を多く取り入れた献立を考えて調理している。糖尿病の利用者には、主食の量や飲み物の味に配慮している。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>外出から戻った際やトイレ後、食事前の手洗いなどを決めていて、ペーパータオルを使用している。利用者と職員は、インフルエンザの予防接種を受けている。面会の方に手洗いをお願いしている。トイレ、手摺り、テーブルなどは、薄めたハイター液で清掃している。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食材の鮮度や賞味期限を確認して使用している。食べきれぬ量の調理を心掛けている。まな板と包丁は、殺菌庫で保管し、布巾の衛生に心掛けている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関には、手摺りやスロープがあり、車椅子使用の方も出入りしやすくなっている。玄関脇の花壇で、季節の花が楽しめる様にしたり、玄関内には植物や、置物などで工夫している。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所、食堂、居間が一体化していて、炊事する姿が見えたり、台所の音が聞こえている。食堂や炬燵から、外の様子が眺められ、季節毎の室根山を楽しんでいる。玄関や居間に、活動時の写真を貼るなどの工夫をしている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂、ソファ、炬燵など空いている場所は、自由に使えるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約の際、家族に対して、慣れ親しんだものや、本人が毎日使っている物を、持ち込んで頂くようお話ししている。ソファやテーブル、お茶道具を持ち込んでいる方も居る。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後や部屋掃除の際は、窓を開けて換気を心掛けている。部屋に設置のエアコンは、使用状況により調節している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴槽の出入りに、手摺りを設置している。低床ベッドの使用で、ひとり一人に合った高さで、起き上がりが、楽に出来るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	調理の際の下ごしらえ(野菜の皮むき、切る等)や味見、盛りつけ、食器洗い、その他テーブル拭き、掃除機掛け、洗濯物干しや(布団干し)取り込み、畳むなど、日常生活の一部分を、能力に応じて対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲にある畑や花壇で、野菜作りや花植えをして楽しんでいる。暖かい日は、ベランダでひなたぼっこをしながら、お茶を飲んでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
		○	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)